

1. 展示会の概要

5月3～5日の3日間、米国シカゴで、UBM Canon 社（カリフォルニア州）主催による米国粉体工業展（PTXi - international Powder & Bulk Solids）が開催された。粉体工業と医薬・包装・化学・食品製造技術の4展示会との共催で、2008年よりUBM Canon 社主催として5回目となった。

2. 以前との比較

前回の2014年は2012年同様来場者が多かったが、2016年の今回は少し減少し、2010年同様レベルの来場者であった。表-1 に2010年からの来場者数推移を示す。

表-1 2010年からの来場者数推移

	展示のみ 来場者数	技術会議 参加者数	合計
2010年	4,929	298	5,227
2012年	6,000弱	約300	6,300前後
2014年	6,453	378	6,831
2016年	4,968	343	5,311

今年来場者が減った原因の一つは、直前の4月にドイツ・ニュルンベルグで開催されたPowtech 2016に海外からの来場者が取られてしまった可能性があるのではないかと考えている。6年に一度、同じタイミングになる2010年にも来場者数が減少していることから、この原因が疑われる。

3. 日本からの出展企業

今回、PTXi (iPBS) 展への現地法人を含めた日本企業の出展は弊社を含め全部で18社と、直近の4回では最高となった(表-2)。今回、当社にて、日本企業7社の直接出展の支援を行ったが、前回同様、共通アイランドブース(合計6コマ、写真-1)でも出展した。メインホールの真ん中で大きく個別の機械を見せることにより集客効果を高めつつも、同時に簡素な装飾で出展コストを下げながら、米国女性モデルや米国人・日本人通

表-2 2010年からの出展企業推移

	日本からの 出展企業数	日本以外 出展企業数	合計	日本からの 直接出展社数
2010年	14	367	381	8
2012年	13	395	408	7
2014年	14	398	412	6
2016年	18	405	423	8

訳を採用し集客数増を目指した。実際、単独出展よりも効果が大きく、前回同様多くの集客を得た(2014年5社合計388名、2016年7社合計420名)。1社当たりのコストが節約でき当初の目的を達成できたといえる。今回は、共同ブースへの参加企業が増え6コマで足りなくなってしまう、共同ブースを2か所に分けざるを得なかった。2年前に場所を押さえる必要があるため、2年前の時点でこれを予想するのは難しく、今回結果としてご不便をかけてしまった会社には申し訳なく、今後の検討材料としたい。

〈18社の企業名〉 エクセン(株)、大川原化工機(株)、筒井理化学器械(株)、日清エンジニアリング(株)、藤崎電機(株)、トリプルエーマシン(株) (以上共同ブース)、高砂工業(株)、ミツミ技研工業(株)、藤崎電機(株)以上日本から直接出展、AAAmachine, Inc. AAA Save Energy, LLC. (Des Plaines, IL)、Freund Vector (Marion, IA)、Fuji Robotics (Redmont, WA)、Horiba Instruments Inc. (Irvine, CA)、Hosokawa Micron Powder Systems (Summit, NJ)、Kuriyama of America Inc. (Schaumburg, IL)、Readco Kurimoto LLC (York, PA)、SMC Corp. of America (Noblesville, IN)、LCI Corporation (Yoshikawa, Charlotte, NC) この他、APPIEは、国際粉体工業展東京を紹介するブースを出展した。(吉原伊知郎氏担当)



写真-1 日本企業共同ブース

4. 展示・技術会議内容

今回も前回同様、技術会議が併設され、Tech Innovation Sessionが実施され、またCenter StageとTech Theaterでもオープンな技術発表があった。

5. おわりに

日本企業の北米でのブランディング向上と営業機会の創出・効率化を目指すために、この展示会は絶好のチャンスである。より多くの日本企業が普通にこのシカゴの展示会に出展できるようになることと展示会の発展を期待するとともに、日本企業の出展を今後も支援していきたいと考えている。